

佳作

津波警報を経験して

沖縄県 沖縄尚学高等学校附属中学校二年 比嘉 倫子

「津波警報が発令されました。直ちに高台に避難してください。」

二〇二四年四月十四日沖縄県に津波警報が発令された時、私は友達の誘いで国頭村の安田区でお泊まりをしていました。友達と売店に行こうと外を歩いている時に村内放送やスマホで警報がなりました。

「緊急津波警報です。直ちに高台に避難してください。」

海がすぐ目の前だったので私は「どこに逃げればいいの」「高いところはどこ」とパニックになりました。いつも一緒にいる親もいない、初めてきた場所でこういうことになるなんて私は不安でいっぱいでした。とりあえずみんなが向かっている方に走って逃げました。高台に走って移動する時、

「車に乗って！」

地域避難訓練しているということでした。私が見たのは、避難する時にみんなで声をかけ合う、来ていない人を確認してどうしたらいいかをみんなで相談し合い救助に行く、待っている間はお互いに声をかけ合い、食べ物を分け合ったり助け合う姿でした。自分だけ助かればいいという考えなど決してなく地域のみんなで協力しあって災害から避難する姿でした。私は初めての土地で見た経験を大切にしようと思います。困っている人がいたら声をかける、弱い立場の人のことも考えて行動できるような人になりたいと強く思いました。

と知らない夫婦に声をかけられて乗せてもらいました。私はすこし安心しました。高台に着くとたくさんの方が避難してきていました。地域の人たちが話し合いをして、何人かの男性でまだ来ていないお年寄りを車で迎えに行くことになりました。もう一度車で下に降りて行って足の不自由なお年寄りや避難を諦めているお年寄りを迎えに行くのです。自分が迷惑になるからと避難をしないお年寄りもいたので。友達のお父さんも私たちに、

「みんなと一緒にここで待っているように、決して降りないように。」

と伝えて救助に向かいました。助きたい気持ちもわかるけど津波が来るかもしれない、自分が死ぬかもしれないという恐怖の中、お年寄りを迎えに戻る人たちの勇気が信じられませんでした。私ができることは友達のお父さんが言うように、安全な場所待って自分の命を守るということだけでした。何人かのお年寄りが迎えにきた車で避難することができました。避難した場所はトイレや飲み水がなく待っている間も大変でした。みんなで情報を確認しながら持っている飲み水を分けたりしながら待ちました。

安田地区の避難場所はここだけで一年に一回学校と